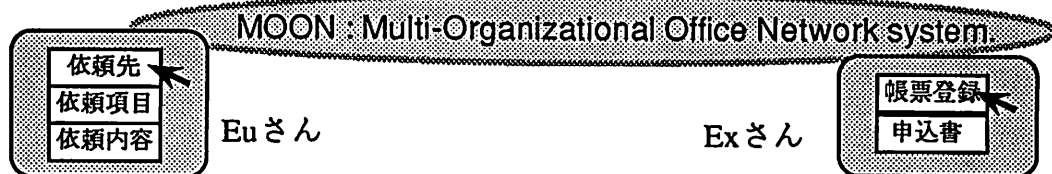


1. 要約

●簡単な操作でネットワークの高度利用を実現

(1) ブラウザ (エンドユーザのインタフェース) :

「依頼先」 / 「依頼項目」 / 「依頼内容」の3項目ですべての依頼処理実行

(2) 標準プロトコル (通信) :

オブジェクト指向概念の拡張 (object.method (parameters) = who.what (how))

→依頼方法に関する who, what, how パラメータに「値の定義の省略」と

「キーワード指定」を導入.

→依頼結果に関する when, where, which パラメータを追加.

(3) ナビゲーション (サーバ側) :

インタラクティブ性の実現 (窓口メタファーの実現)

サーバ側エージェント (業務の専門家の知識獲得)

(4) エージェント (クライアント側)

学習による操作の簡略化 (依頼方法に関する知識と依頼主に関する知識獲得)

2. 技術項目

(1) ネットワーク : インターネット, イン트라ネット, LAN 対応のマルチプラットフォーム化

(2) データベース : サービス (サーバ) の分散管理と階層管理

(3) 電子フォーム : ナビゲーション情報の知識化, 機種非依存性

(4) エージェント : 例題による学習

(5) 実装言語 (例) : Java (双方向性, 機種非依存性, 並行処理性), HORB (分散オブジェクト管理)

3. 効果

●エンドユーザ (クライアント)

wwHwwブラウザからすべての依頼を済ませる.

●エンドユーザ (業務の専門家)

アプリケーションフレームワークを利用して自分で簡単に業務の電子化ができる.

以上